

「自然エネルギー・拡大市民委員会」議事録

2001/12/28

「自然エネルギー促進法」推進ネットワーク 事務局

TEL: 03-5366-1186 FAX: 03-3358-5359

E-mail: gen@jca.apc.org

日時：12月20日(月)10時～12時

場所：参議院議員会館 第4会議室

出席者：「市民委員会」委員及びオブザーバー（最終頁参照）

司会：大林ミカ、畑 直之

プログラム：

1. 新エネ部会（12/19）報告 / 飯田哲也
2. 「経産省RPS案の問題点とあるべき政策手段の提案」紹介 / 朝野賢司
3. 加藤修一議連会長コメント
4. 「市民委員会」意見及び提言（案）検討
5. まとめ / 今後について

配布資料

1. 経産省 RPS 案の問題点とあるべき政策手段の紹介
2. 「自然エネルギー市民委員会」意見及び提言（案）

1. 新エネ部会（12/19）報告 / 飯田哲也

前日（12月19日）に開催された新エネ部会（第8回会合）に委員として出席した飯田より、部会の様子についての報告があった。

- ・新エネ部会新市場拡大措置検討小委員会「報告書」及びパブリックコメントのまとめがあった。
- ・パブリックコメントについては、短期間の募集であったにもかかわらず、270件を超える意見が寄せられたこと、その多くがRPS制度に踏み込んだものであったということは画期的なことである。
- ・事務局説明後、柏木部会長より、各委員順次1人3分で意見を述べるよう提案があったので、飯田は論点別に議論するよう主張したが退けられた。
- ・通常「シャンシャン総会」で終了することが慣例の最終審議会であるにもかかわらず、「報告書」に関し、多くの委員から意見・異論が続出した。
- ・飯田は、本日、朝野さんが報告する「経産省 RPS 案の問題点とあるべき政策手段の提案」を事前に部会に提出し、要点について意見をのべた。
- ・更に、政府「小委員会」の委員人選の根拠及びNGO、特にこの問題について最も関わってきており、専門家でもある「自然エネルギー促進法」推進ネットワークを参加させない理由及び、小委員会報告書の最終的な扱い、どこにどのようにして提出するのか、当然出るであろう異論についてどのように審議するのかしないのか、等について直接柏木部会長が回答するよう求めたが、明確な回答はなかった。
- ・各委員からは多くの問題点が出たが主なものは下記の通り。
 - ・廃棄物、廃プラ発電が入っているが、CO2を排出することについてつじつまが合っていない。産廃が拡大するのではないか。
 - ・自家発電に義務を課すのかどうか、電力会社とガス会社で意見が分かれたままである。この問題について、委員の間できちんと議論がされていない。
 - ・系統連携強化については、3年間の検討期間中は特段の系統対策が生じない範囲にとどめるとのこと及び、コストの負担に対する異論
 - ・証書の価値は何か、CO2削減価値は含まれているのかいないのか、代替エネルギーとしての価値のみか
- ・最後に柏木部会長自ら、各委員からでた十数項目の問題点を列挙し、どう見てもこの報告書で意見集約が出来るような状態ではないにもかかわらず、柏木部会長は「大枠での合意で了解を取らせて欲しい」ということで押し切ろうとした。
- ・これについて飯田は、少なくとももう一度議論するか、あるいは議論の方向性、報告書の扱いについて議論すべきであると主張したが、最終的には、専修大学の鶴田さんの過激な発言と、エネ庁長官の中途半端な段階での最後のコメントで、審議会は終了した。
- ・今朝の朝日新聞の報道でも「見切り発車」としており、中身についてこの審議会では全く合意がなされていないということを世間に知らしめたということ、また内容面での問題について

でも、RPS という聞き慣れない政策が急速に入ってきたにもかかわらず、パブリックコメントの内容をみると、かなり周知が進んできたと考えられる。

- ・今後、公開質問状や国会質問等を通して、問いただしていきたい。

大林ミカ（司会 / 「自然エネルギー促進法」推進ネットワーク）

パブリックコメントに関しては、エネ庁からは「パブリックコメントに対する考え方」という資料が配付されて、答えになっていないまとめをした。

昨日、傍聴された方も多いと思いますが、皆さん何かご意見ありますか？

正田 剛（日本自然エネルギー株式会社）

- ・今回の報告書は、CO₂を排出する廃棄物発電が含まれており、証書の価値が明確でないこと等、CO₂排出推進法案である。
- ・電力会社から、「これまでの余剰電力購入メニューやグリーン電力証書の努力が報われない。このままでは企業防衛上、安い廃プラ発電を買って枠を満たす、あるいは電力会社自ら廃プラ発電をやるということにもなりかねない」という意見も出た。

畑 直之（司会 / 気候ネットワーク）

- ・私も傍聴したが、この法案なら、ない方がよい。再生可能エネルギー普及の妨げとなる。
- ・系統連携の検討のために3年間ストップするというのは問題である。
- ・法律発効後のもののみが義務対象ということになれば、事業者は様子見となり、普及が遅れる。

大林ミカ（司会 / 「自然エネルギー促進法」推進ネットワーク）

- ・消費者団体からも、消費者の合意が全く得られていないという意見が出た。

鮎川ゆりか（WWF自然保護基金日本委員会）

- ・地球温暖化問題を解決するために発足したはずなの部会は、CO₂排出削減の議論はそっこのけで、RPS制度を強引に押し通そうとしたことは、審議会として問題である。

河田鉄雄（ホームサイエンス舎）

- ・RPSは、はやりの市場重視主義の流れを取り込んだもので、地球温暖化、CO₂排出削減対策から出発して自然エネルギーを拡充していかなくてはならないという制度が、市場主義者に奪われてしまったのではないかと感じる。
- ・色々意見が出ているにもかかわらず「概ね合意」という形でまとめようとする審議会のやり方は、問題である。

池田元英（小委員会委員 / イーレックス株式会社）

- ・議論の進め方には問題点がある。
- ・必ずしも市場を信奉するというわけではないが、認証の問題はきちんとすべき。
- ・自然エネルギーを促進する上で、何らかの市場メカニズムは必要である。

堀 俊夫（トーマン・パワーホールディングス）

- ・グリーン証書の定義は何なのか？・CO₂は入るのか、入らないのか？

飯田哲也（「自然エネルギー促進法」推進ネットワーク）

- ・グリーン証書は差額補填である。
- ・CO₂は入るとも入らないともエネ庁は言っていない。

堀 俊夫（トーマン・パワーホールディングス）

- ・一番肝心の所が議論されていない。義務という所から入っている。
- ・小委員会が何ヶ月かけて作成した報告書を、大勢の委員ががわらずか2時間くらいの部会で審議しようというのは暴挙である。

飯田哲也（「自然エネルギー促進法」推進ネットワーク）

- ・池田さんには申し訳ないが、この報告書は世界に恥ずべき報告書である。
- ・本当に議論しなくてはならないことが議論されていない。証書の価値、廃棄物発電の適格性、系統連携、対象をどこにするか...等である。
- ・鶴田さんのように空想的机上論ではいけない。実際は風力が伸びるかどうかがまず問題で、バイオマスの電力はアメリカでもヨーロッパでも市場としてはまだほとんどネグリジブルである。風力が伸びるかどうかで制度を見なくてはならない。
- ・委員としては、あそこまで合意のとれていない段階で終わらせたことについて、部会長としての責任を問うことで、公開質問状を出すつもりである。また来年の国会で、審議会での内容についても、手続きについても、問題があるということで、議員を通して追求したい。

2. 「経産省RPS案の問題点とあるべき政策手段の提案」紹介

飯田代表が19日の新エネ部会に提出した標記内容について朝野賢司（「自然エネルギー促進法」推進ネットワーク）より、プロジェクターを用いての説明およびそれに関する質疑があった。

（詳細略、添付「経産省RPS案の問題点とあるべき政策手段の提案」参照）

3. 加藤修一議連会長コメント

- ・廃棄物発電について追加的CO2が出ないというのはおかしい。
- ・RPSの中身が問題だと思っているので、議連としてもRPS対抗案を準備する。
- ・各法が出てからの検討では遅いので、来年早々から着手する。
- ・前回、議連法制化WTで、経産省に説明を求めたが、CO2排出についての意識は極めて稀薄であった。

4. 「市民委員会」意見及び提言（案）検討

飯田哲也（「自然エネルギー促進法」推進ネットワーク）

- ・19日の新エネ部会で、「市民委員会」意見及び提言（案）を参考資料として、市民委員会リストは付けずに提出した。
- ・内容の説明（省略）

倉阪秀史（千葉大学）

- ・市民委員会の提案としては、議員等にも理解しやすいよう、わかりやすい表現、内容である必要がある。
- ・RPS枠の設定が問題。経産省が決めることに懸念がある。枠を決めるのに開かれたプロセス、公開性が必要である。

正田 剛（日本自然エネルギー株式会社）

- ・枠の大小について記述することには反対である。

渡辺雅樹（持続可能社会研究会）

- ・固定価格買取制度を主張しているのに、RPS枠について触れるのはおかしい。

畑 直之（気候ネットワーク）

- ・提言として、まず、下記（1）のように述べており、それが採用されない場合の最低限の条件として述べているのだから、おかしくない。
(1)普及を重視した制度の先行実施：日本の自然エネルギー市場の現状やRPSに関して未検討課題が多く不確実性の高い現状から判断すれば、現時点では、普及効果が確実であることが明白な固定価格買取制度、発電電力量に比例した補助制度、自治体・民間による自主的取り組みへの支援、等を先行して実施することが優先されるべきである。

吉高 まり（東京三菱証券クリーンエネルギーファイナンス委員会）

- ・市場メカニズムを推進する立場であり、それが機能するようにしなくてはならない。
- ・廃棄物発電については排出量取引の観点からも市場をゆがめるものである。
- ・（国際的には）廃棄物を入れるかどうかは各国が決めることである。

堀 俊夫（トーマン・パワーホールディングス）

- ・国際的取引はないと聞いている。

（廃棄物発電、証書の価値等について更に議論が行われたが詳細は略）

5. まとめ

- （1）廃棄物発電、証書の価値等について更に議論が行われた（詳細は略）が、結果として、「自然エネルギー市民委員会からの提言」（2）総合資源エネルギー調査会新エネルギー部会新市場拡大措置検討小委員会案に求める最低条件に関する 、 、 を整理して、下記 、 のように修正することで、「自然エネルギー市民委員会」意見及び提言とすることとなった。

変更前

証書の価値、とくに CO2 価値の帰属について、広く慎重に議論を行うこと

対象電源の適格性について、広く慎重に議論すること

特に、上記 に関しては、客観性・公平性を確保するために、エネルギー政策に取り組む環境 NGO などを交えた議論をおこなうべきである

RPS の「枠」を越えた自然エネルギーについても政府による安定的な導入促進政策が講じられること：RPS の「枠」を越えた自然エネルギーについても一定のインセンティブが常に与えられるべきである。発電電力量に対応した補助や税制優遇等、政府による安定的な導入促進政策が平行して講じられるべきである

変更後

新市場検討小委員会の提案する制度は、廃棄物発電を拡大し、二酸化炭素排出を大幅に増大させるという大きな懸念が残る。対象電源を、地球温暖化防止に貢献する自然エネルギーに限定すること

RPSの目標値の設定について：RPSでは、目標値という形で導入量が事前に決められてしまうことから、「枠」の決定に際して、幅広い関係者を交え透明なプロセスのもと定められること、また、随時見直しが行われることを求める。さらに、RPSの「枠」を越えた自然エネルギーについても一定のインセンティブが常に与えられるべきであり、発電電力量に対応した補助や税制優遇等、政府による安定的な導入促進政策が平行して講じられるべきである

（特に、上記 に関しては、客観性・公平性を確保するために、エネルギー政策に取り組む環境NGOなどを交えた議論をおこなうべきである）

- （2）「自然エネルギー市民委員会」意見及び提言に付す市民委員会委員名に関し
- ・堀 俊夫さんについては（風力発電事業者懇話会）ではなく（トーマン・パワーホールディングス）とする。
 - ・西田圭一さんについては（太陽光発電協会）として名前を連ねることは適切ではないという申し出があり、名前は入れないこととした。

- （3）本日の打ち合わせの基づき修正した「自然エネルギー市民委員会」意見及び提言を添付する。

添付

1. 経産省 RPS 案の問題点とあるべき政策手段の提案
2. 「自然エネルギー市民委員会」意見及び提言

「自然エネルギー・拡大市民委員会」出席者リスト

委員

鮎川ゆりか (WWF自然保護基金日本委員会)
岡崎 時春 (地球の友ジャパン)
河田 鉄雄 (ホームサイエンス舎)
倉阪 秀史 (千葉大学)
正田 剛 (日本自然エネルギー株式会社)
西田 圭一 (太陽光発電協会)
畑 直之 (気候ネットワーク)
堀 俊夫 (トーマン・パワーホールディングス)
吉岡 洋介 ((財)奈良県緑化推進協会)
吉高 まり (東京三菱証券クリーンエネルギーファイナンス委員会)
渡辺 雅樹 (持続可能社会研究会)
飯田 哲也 (「自然エネルギー促進法」推進ネットワーク)
大林 ミカ (「自然エネルギー促進法」推進ネットワーク)
朝野 賢司 (「自然エネルギー促進法」推進ネットワーク)

オブザーバー

議員/秘書

加藤 修一 (公明党)
北川れん子 (社民党)
竹村 英明 (福島瑞穂 社民党 参議院議員 秘書)
廣瀬勝芳 (山内恵子 社民党 衆議院議員 秘書)
有馬康博 (加藤修一 公明党 参議院議員 秘書)
三葛敦志 (福山哲郎 民主党 参議院議員 秘書)
市毛新二 (畑野君枝 共産党 参議院議員 秘書)

新エネ部会新市場拡大措置検討小委員会

池田元英 (イーレックス株式会社)

事務局

安間 武 (「自然エネルギー促進法」推進ネットワーク)